

今週のメニュー

[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 中原 茂明

[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

[編集後記](#)

年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 中原 茂明

皆様、明けましておめでとうございます。本日はご多用中にも拘わりませず、当協会の新年賀詞交歓会に、経済産業省 川上大臣官房審議官をはじめとして関係官庁、塩ビ関連産業、メディアの皆様、そして日頃からお世話になっている皆様方に、多数ご出席賜り、誠に有難うございます。本年も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年に当たりまして、年頭の所感を述べさせていただきます。

昨年の塩ビ樹脂の内需は104万t前後、前年比で108%程度と見込まれますが、リーマンショック前のレベルには戻っておりません。塩ビの主たる用途は建材ですが、新設住宅着工件数は、回復の足取りは重く、年間80万戸程度に留まり、リーマンショック前より20万戸以上少なく、同様に政府・民間の建築投資を見ましても低い状況が続いています。一方、塩ビ樹脂の輸出は、途上国の需要は拡大しているものの原料の高騰などの影響を受け、70万tには届かず前年を若干下回る見込で、塩ビ事業の厳しさが続いています。業界としては、力強い景気の回復を待望しており、そのための政策、そして日本の将来を支えるための成長戦略に大いに期待をしております。

この様な状況下で、昨年末には原料ナフサ課税、環境税など、日本の基幹産業である化学産業の基盤を揺るがすような議論がありました。工業原料の非課税原則は世界の常識ですので、せめて海外と同じ土俵を整えていただきたいと思います。法人税率の引き下げは高く評価しておりますが、競争相手の国々と比べればまだまだ高い水準にあります。一層の税率引き下げを期待したいと思います。



VEC 中原会長



経済産業省
川上大臣官房審議官

ここで、昨年春以降のV E C事業活動と塩ビ産業の動向について、主要なものを3つほどご紹介させていただきたいと存じます。

一つ目は、リサイクルへの取り組みであります。弊協会が設立した「塩ビリサイクル支援制度」は約3年が経過し、従来困難だった複合材からのP V C回収や、再生P V Cの用途開発などで着実に成果が上がりつつあります。成果の一つである、再生材を使用した日よけは、何度もメディアにとりあげていただきました。日本科学未来館に続き、ららぽーと豊洲でも実証試験が行われています。高速道路のサービスエリアにこの日よけを設置する計画があるとも聞いております。また、壁紙等から樹脂と繊維を分離する技術も注目を集め、海外からのサンプル試験の依頼がありました。再生材を使用したカーペットタイルの売り上げも増えていると聞いています。

二つ目は樹脂窓です。V E Cとして10年近く前からその普及事業に力を注いできました。ご承知の通り、温暖化防止策として大きな貢献ができるだけでなく、室内の温度を安定させることで住まう人に優しく、また、結露による住宅躯体の腐食も防止する効果があります。政府に住宅版エコポイント制度を創設いただいた結果、二重窓の設置がこれまでの2倍、3倍という高いペースで進んでおります。それでも、既存の住宅数に比べれば設置件数はまだまだ微々たるものに留まっています。また、現行の断熱基準は、10年以上前に作成されたものであり、世界の水準と比べると大きく見劣りします。現在、断熱基準の見直しや義務化の検討が進んでいると承知しておりますが、人にも、家にも、地球にもより優しくなることですから、是非とも世界を先導するような方向を出していただきたいと思っております。塩ビ製の樹脂窓が貢献できるものは大きいと自負しております。

最後に、塩ビ製品を見直し、その将来の可能性を拓こうとする試みとして、「塩ビものづくりコンテスト2011」をご紹介したいと思います。透明性、加工性、デザイン性、機能性、耐久性等に優れる軟質塩ビの、素材としての特長を活かした新たな製品を提案いただき、そのポテンシャルを世の中にアピールするとともに、関連産業、特に中小企業の活性化を図ろうとするものです。東日本・中日本・西日本プラスチック製品加工協同組合、日本ビニール商業連合会、日本ビニール工業会、V E Cが主催しますが、経済産業省および(社)日本インダストリアルデザイナー協会に後援をいただいております。このコンテストは、企画の初期段階から、樹脂から製品に至る業界関係者とデザイナーの方々との間で、時間をかけて議論を重ねてきました。これからのものづくりは、塩ビにかかわる産業間でコミュニケーションを深めることはもちろんのこと、デザイナーや消費者の声にも積極的に耳を傾け、協力していくことが重要ではないかと考えます。このコンテストを一つの契機として、そのような協力関係を深めていきたいと考えております。

弊協会においては、私ども塩ビ業界会員各社一丸となり、塩ビが、ものづくりでも、環境問題に対しても、いかに有用な素材であるかにつき、広くご理解を頂けるよう努力することで、塩ビの需要の回復、「塩ビの復権」を図る所存です。そのために、経済産業省を始めとする関係省庁、並びに関連業界の方々、メディアの方々のご指導、ご鞭撻、ご支援、ご協力を賜れますようよろしくお願いいたします。

(1月7日開催のV E C賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

あけましておめでとうございます。

経済環境はまだまだ厳しいものがありますが、地球環境問題、資源制約、安全と安心への関心が高まる中で、塩ビ製品の特長があらためて見直されてきているように思います。また、そのような環境特性に加えて、塩ビ製品がもつ加工性能、色の鮮やかさ、デザイン性なども改めて注目されるようになってきたように思います。

先月から科学未来館で開催されている[テオ・ヤンセン展](#)では、浜辺の風を受けて生き物のように動くビーチアニマルが展示されています。無数の塩ビパイプを使って組み立て上げた作品は、数メートルから十メートルをこえる大きな構造物です。精緻な計算により設計されたものであり、個々の部品の形状、寸法には厳しい精度が求められ、十分な強度とともに加工性能が高い素材でなければできないであろうことが容易に想像できます。紹介ビデオの中で、テオ・ヤンセンさんは、単一の素材で作ろうとしたこと、そして、塩ビを使用していることから気候の影響を受けないことをアピールしています。まさに、塩ビの特長に着目したものです。

昨年12月のエコプロダクツ展は、ブースの構造物、展示品と陳列台、パネル、床材のすべてを塩ビ製品で構成しました。多種多様な製品の中には、鮮やかな色彩や優雅なデザイン、質感に優れた製品が多々ありましたが、その中で、[黒河内真衣子さんがデザインされたバッグ](#)はひときわひかるものがありました。ガラスのような透明感と光沢のあるエッジを、柔らかい素材で成し遂げようとしたと伺いました。また、[塩ビものづくりコンテストのポスター](#)は、色彩が美しく透明感のある素材としての軟質塩ビをアピールするグラフィックです。こちらはデザイナーの熊谷彰博さんが作成してくださいました。デザイナーの方々が、塩ビ製品を極めて魅力的な素材として見ている証です。海外でも、塩ビを使用した斬新なデザイン作品が次々と出ています。

今年は、将来の温暖化対策の世界的枠組みを決める重要な年となります。税制の優遇策と住宅版エコポイントを追い風に、昨年、二重窓は大きく伸びました。改修工事でのエコポイント申請累計件数（昨年11月まで）は17万件に及び、そのほとんどで二重窓が設置されたと推察されます。他方、ストックとしての住宅戸数はおよそ5千万戸ですが、次世代省エネ基準（H11）を達成するものは数%と僅かな比率に留まっているものと見られています。二重窓、或は、樹脂窓の設置による断熱改修には大きな余地があります。二重窓、或は樹脂窓の設置により大きな省エネ効果が期待されますが、それに加えて、静粛さや温熱環境が安定することによる住まい心地の向上は筆舌に尽くしがたいものです。導入件数の増加に伴い、その良さが広く伝わり、生活の質を上げてエコをするブームが起ることを期待したいと思います。

最後に、塩ビサイディングについて紹介したいと思います。もともと、凍害に強いことから北海道が主たる市場でしたが、最近、メンテナンスが容易で耐震性向上にもつながる軽量建材として注目され、施工件数が増えてきています。都内でも施工事例が見られるようになりました。各種展示会でも強い関心を集めるようになってきました。塩ビサイディングも、その耐久性と優れたメンテナンス性能故に、環境に優しい素材です。また、コンクリートの塩害防止でも大きな効果が期待できます。ビル等の建造物の寿命を延ばすのに大きな貢献ができるでしょう。塩ビ製品による環境への貢献が、また一つ厚みを増すこととなります。

今年は、干支の卯にちなみ、塩ビ産業にとって飛躍の年となることを期待したいと思います。(了)

編集後記

あけましておめでとうございます。東京は天気にも恵まれ、良いお正月を迎えることができました。メルマガも切りのよい301号から始まります。さて今年2011年は世界化学年です。キューリー夫人がノーベル賞を受賞して100年目に当たることから、持続可能社会の実現のために求められる「化学」の重要な役割を記念し、再確認するために、国連総会で決議されました。世界中で多くの行事が企画されており楽しみです。これを期してというわけではありませんが、今年のVECの活動も、会長の挨拶のように、よりポジティブに需要回復に向けた活動に力を入れたいと思っています。

今年は卯年、ウサギが跳ぶように、景気も塩ビも良い方向に大きくジャンプする年にと祈念しています。(可)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp